

# 令和5年度 学校評価結果報告書

上田市立 神川小学校

## 1 学校教育目標

考える子 心の美しい子 たくましい子

## 2 めざす子どもの姿・中期的な目標（具体的目標）等

- 1 一人で、みんなで考えられる子
- 2 自他の良さを感じられる子
- 3 一人で、みんなで心と身体をきたえる子

## 3 昨年度（令和4年度）の学校評価の成果と課題

- ・コロナ下で活動が制限され、外に出かけたり、調べに行ったりする活動が思うようにできなかったが、9割を超える児童が「学校に来ることが楽しいですか」という問いに対して、肯定的な回答をしている。「授業には一生懸命取り組んでいますか」の問いにも78%の児童が肯定的な回答をしているが、22%の否定的な意見の児童に目を向けていかないと学力向上、不登校児童の減少につながっていかないため、授業のユニバーサルデザイン化などをさらに進めていく。
- ・保護者へのアンケートと児童アンケートの実施、回収、分析が年1回のみのため、年度当初と後半での意識の違いがわからない。そのため、学校評価アンケートを来年度は7月、12月と2回実施して変化を見る。

## 4 今年度の重点目標と目標達成のための具体的取組

重点目標	具体的取組
学ぶ楽しさが味わえる授業	<ol style="list-style-type: none"><li>① 3年生以上の学年で、教科担任制の一部実施し、他クラスの授業を行う。職員の得意分野を生かす。</li><li>② ねらいの明確化、見通しをもった授業、振り返りの充実を常に意識し、マグネットを使ってUD化を進める。</li></ol>
みんなとつながる活動	<ol style="list-style-type: none"><li>① 1時間の授業の中で、体験的な活動やグループ活動などを多くすることを意識して授業を仕組む。</li><li>② 新型コロナウイルス感染症も5類に移行したことから、ペアやグループでの学習を多く取り入れる。</li><li>③ 友と関わりやすくするための、座席配置などを工夫し、協働的な学びのしやすい環境を作る。</li></ol>
心と身体を育む体験・交流	<ol style="list-style-type: none"><li>① ふるさと学習や交流学习の再開 (山本鼎先生の学習、命の学習、目の見えない方のお話、バイパスや神川橋工事見学など地域を活かした学習、今しかできない学習を大切にしていく。)</li><li>② 養護学校との交流の再開 (学年ごとの交流、居住地校交流の充実)</li></ol>

## 5 評価の方法

- 1 自己評価（児童、保護者アンケート等）  
児童・保護者・学校職員に年2回以上アンケートをとって集計し、結果について全職員で考察した。
- 2 学校関係者評価（組織等）  
運営委員会の皆さんに報告をし、ご意見をいただいた。

## 6 自己評価（児童、保護者アンケート等含）の結果と分析

- 「すすんであいさつができていますか」の設問に対して  
登下校での友だちや地域の方々に向けたあいさつだけでなく、来客のある時など意識してあいさつができるように声がけ、振り返りをしていきます。また、家庭内の日常のあいさつの奨励をしていった。肯定的な回答は2学期になり、児童・保護者とも約1%の微増ではあるが上昇している。学校では、名前を呼んでのあいさつを大切に、家庭には、日常でのあいさつを奨励していく。
- 「神川の特徴をいかした学習は楽しいですか（興味関心がある）」の問いに対して  
児童の「はい」の回答(71.6%)と、保護者の「興味を持っていますか」に対する「はい」の回答(34.0%)に開きがありました。交流学習で、子ども達が楽しんでいる様子の情報発信を増やし、保護者の皆様にも楽しんでいる様子を伝えていく必要を感じました。加えて学級懇談会でも意識して情報の発信をしていきたいです。  
親子関係の希薄化による、学校での様子の会話の減少も一因として考えられるため、日常の親子間の会話を促していく必要もありそうです。
- 「(児童)メディアに関するきまりを守れていますか」「(保護者)メディアコントロール週間が使い方を考えるきっかけとなっていますか」という問いに対して  
児童は、90%以上の児童が「できている」と回答していますが、メディアの使い方について家庭でも振り返るきっかけとしていただけている家庭は80%に届いていませんでした。これは、兄弟が中学生にいても、学校ごと設定時期が異なるため、家庭の中で統一できていないことも要因ではないかと考えられます。来年度は、一中区でこの期間を統一する必要を感じ、東小、一中でそろえる必要を感じています。

## 7 学校関係者評価の結果と分析

- ・「一人で、みんなで」考えたり、心と身体をきたえるを目指す子どもの姿に掲げていることに賛同を得られています。学校運営委員のみなさんの意見をトータルするとA・Bとなりますが、中にはCをつけてくださった評価もありました。
- ・今年度は、あいさつについて「できる子とできていない子の差」「言葉だけでなく、表情」についてご指摘もありました。全体の評価だけでなく、個々の様子にも気を配っていく必要があると感じます。
- ・工事が進んでいるバイパスや神川橋の見学など、今でしかできないことの体験学習について高い評価をいただきました。地域素材の学習について、学校運営委員のみなさんも関心を持っていただきました。

## 8 自己評価・学校関係者評価の公表

- ・ホームページへの掲載、家庭通知により、地域や家庭に結果を公表した。

## 9 設置者（上田市・上田市教育委員会）への要望等

- ・多くの地域の方にボランティアや学習支援に入っていただいた。ボランティア保険に市で加入していただけるシステムを継続して行ってほしい。ただし、来客時の駐車場があまりにも少ないため、雨天時にはどうすることもできなくなっている。

## 10 まとめと次年度に向けて

- ・教科担任制は一部単位ではあったが、3年生以上で実施できた。
- ・座席の工夫等も行い、協働的な学びや探究的な学びにつながりやすい話し合い活動を充実させることができた。
- ・ふるさと学習は、山本鼎先生の学習、大豆栽培から味噌づくり、綿の学習、命の学習、しめ縄づくり、神川橋工事見学など再開あるいは新たな取り組みの学習を地域の方を招いて学習することができた。身体作りにも上田整形外科より講師を招いて全校で取り組めた。これらのことを来年度も継続。保護者・地域への情報発信も増やしていきたい。